【資料③-1】

日本一の風景街道の創造

宍粟市風景ビジョン

「宍粟市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています」

風景とは

「目の前に広がる眺め」だけではなく、
先人から脈々と受け継がれてきた歴史や人の営みが存在する

風　景

＋

風景を引き立てるもの
音、匂い、触り心地、味覚 など

地域で大切に守り伝えられてきたもの
歴史、風土、生業、文化 など

風景ビジョンとは

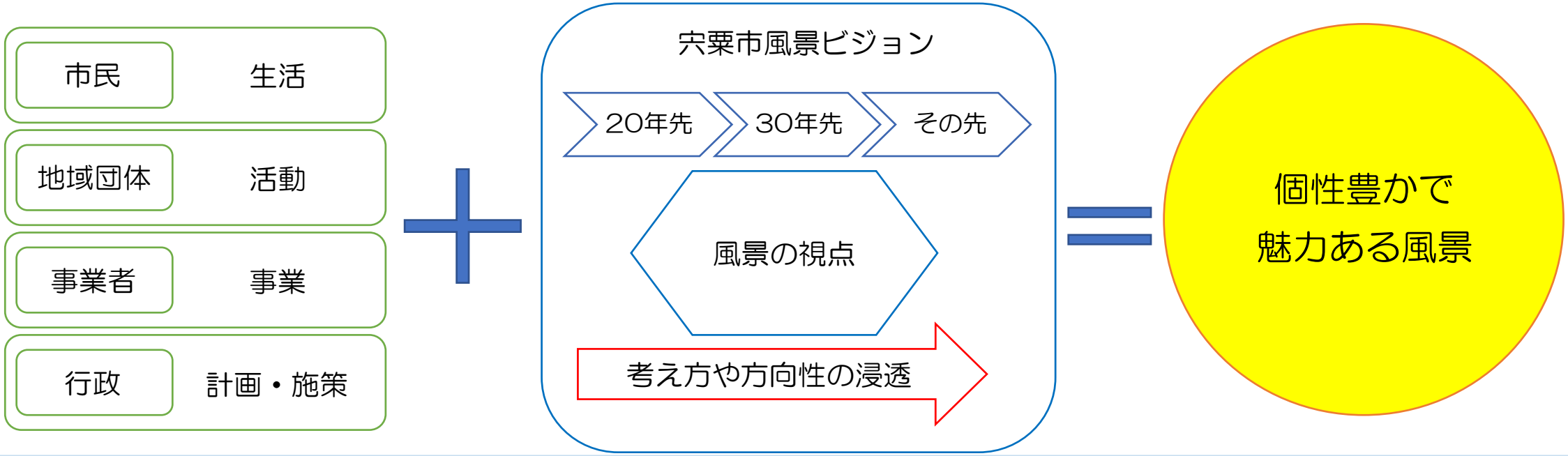
・風景づくりの基本的な考え方や方向性、進め方を示すもの
・風景づくりがめざすべき未来の姿を共有するもの

～日本一の風景街道をめざして～

・市内に点在する様々な風景が様々な形でつながることで、新たな資源や人の営みが生まれます。
・集客力の向上や付加価値の創出が新たな魅力ある風景を生み、豊かな生活の実現につながります。
・この好循環を継続させ、私たちが地元を誇りに思い、いきいきと充実した生活を送り続けることができる「日本一の風景街道」をめざします。

風景ビジョンの位置づけ

市民、地域団体、事業者、行政が、ビジョンを通して、
日々の生活の中に**風景の視点**を持ち意識することで、
地域の魅力への気付きや**地元への誇り**が生まれる



風景を見つめる～風景を取り巻く状況～

様々な風景、資源

ちくさ高原

チャンチャコ踊り

ウォーキング

波賀城史蹟公園

森林整備

E-BIKE活用

風景を見つめる～風景を取り巻く状況～

■地域の個性を活かした活動

・独自性ある地域活動への支援
・市外からの人材受け入れ など

地域資源を活かした地域活動や好きなこと、興味のあるテーマを中心としたグループ活動の広がり

風景を見つめる～風景を取り巻く課題～

■人口減少や人口構造の変化

・人口減少、少子化により風景の維持が困難な状況

例えば…✘地域の担い手の減少 ✘森林や農地の荒廃
✘空き家の増加 ✘伝統的行事の縮小

■新型コロナウイルス感染症の影響

・社会生活のあり様の変化
・地方への関心の高まり
・アウトドアや健康に対する需要の高まり

⇒安心して宍粟を訪れてもらえる環境づくりが求められる

風景を見つめる～風景を取り巻く課題～

◆課題への対応

・人口構成や産業構造の変化などへの対応

・特色あるまちづくり（他自治体に比べた独自性、優位性）

・市内外の多くの人から「選ばれるまち」へ

⇒風景づくりの果たす役割はますます大きくなっている

⇒持続可能な人の営みの中で魅力ある風景を守りつくっていくことが大切

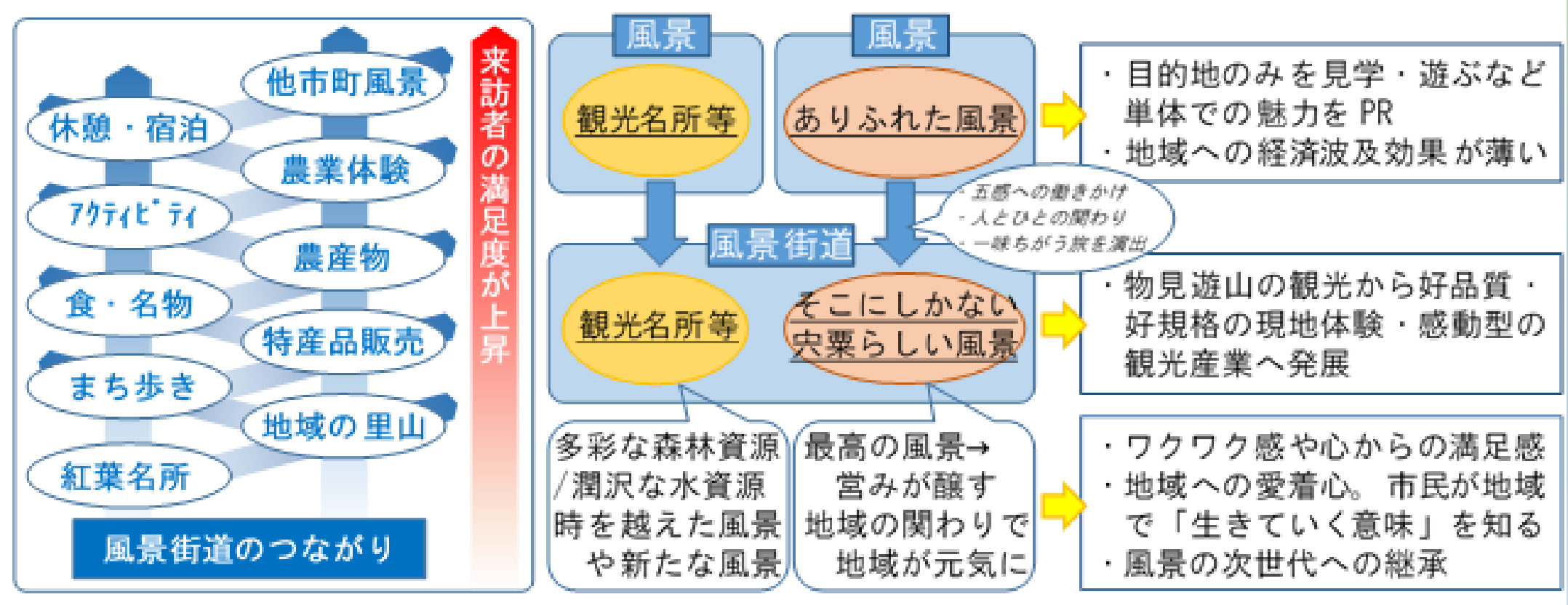
森林保全、耕作放棄地対策、里山整備、

空き家/空き店舗の利活用促進 など

風景を考える ～風景街道～

風景のつながり「風景街道」 ≠ 道のつながり

＝ 風景と風景、人、地域など、多様な関わりから生まれるもの



風景を考える ～風景づくりの意義～

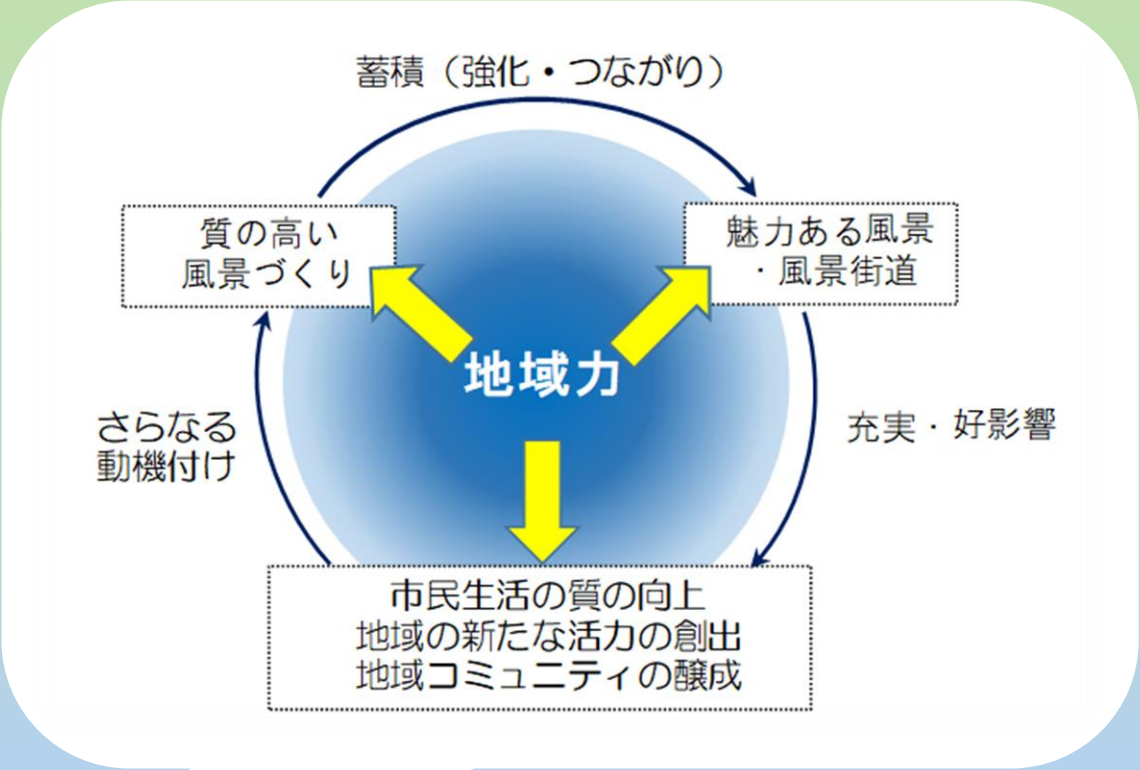
■風景づくりがもたらすもの

（1）**市民生活の質の向上**
人の心に安らぎと潤い

（2）**地域の新たな活力の創出**
文化芸術活動の誘発
観光振興や企業誘致促進

（3）**地域コミュニティの醸成**
安心した暮らしの確保

（4）**風景づくりによる好循環**
誰一人取り残さない持続可能な地域社会の実現



風景の今、風景の未来

■今の魅力ある風景

（1）都市/まちと暮らし

旧商店街での軽トラ市

（2）農地/里地と暮らし

農業体験

（3）山林/里山と暮らし

里山整備

（4）河川/湖と暮らし

カヌー体験

（5）歴史/文化と暮らし

幻の酒「三笑」の蔵出式

風景の今、風景の未来

■市民の思い

令和３年度にタウンミーティングを実施
地域の残したい風景、つくりたい風景について意見交換

タウンミーティングでの意見（抜粋）

分類	内　　容
都市/まちと暮らし	子どもたちを地域で見守る教育環境、行政と連携した情報発信
農地/里地と暮らし	中山間地の棚田活用、管理する人が少なくなっている農地の維持
山林/里山と暮らし	登山がしやすい環境、広葉樹の植栽による豊かな森づくり
河川/湖と暮らし	揖保川や福知渓谷、音水湖など個性豊かな風景の維持
歴史/文化と暮らし	森林鉄道遺構の活用、地元の行事や祭りの継承

風景の今、風景の未来

■これからの風景

地域の個性を磨き まちがひとつになる

（1）スローガン：日本一の風景街道

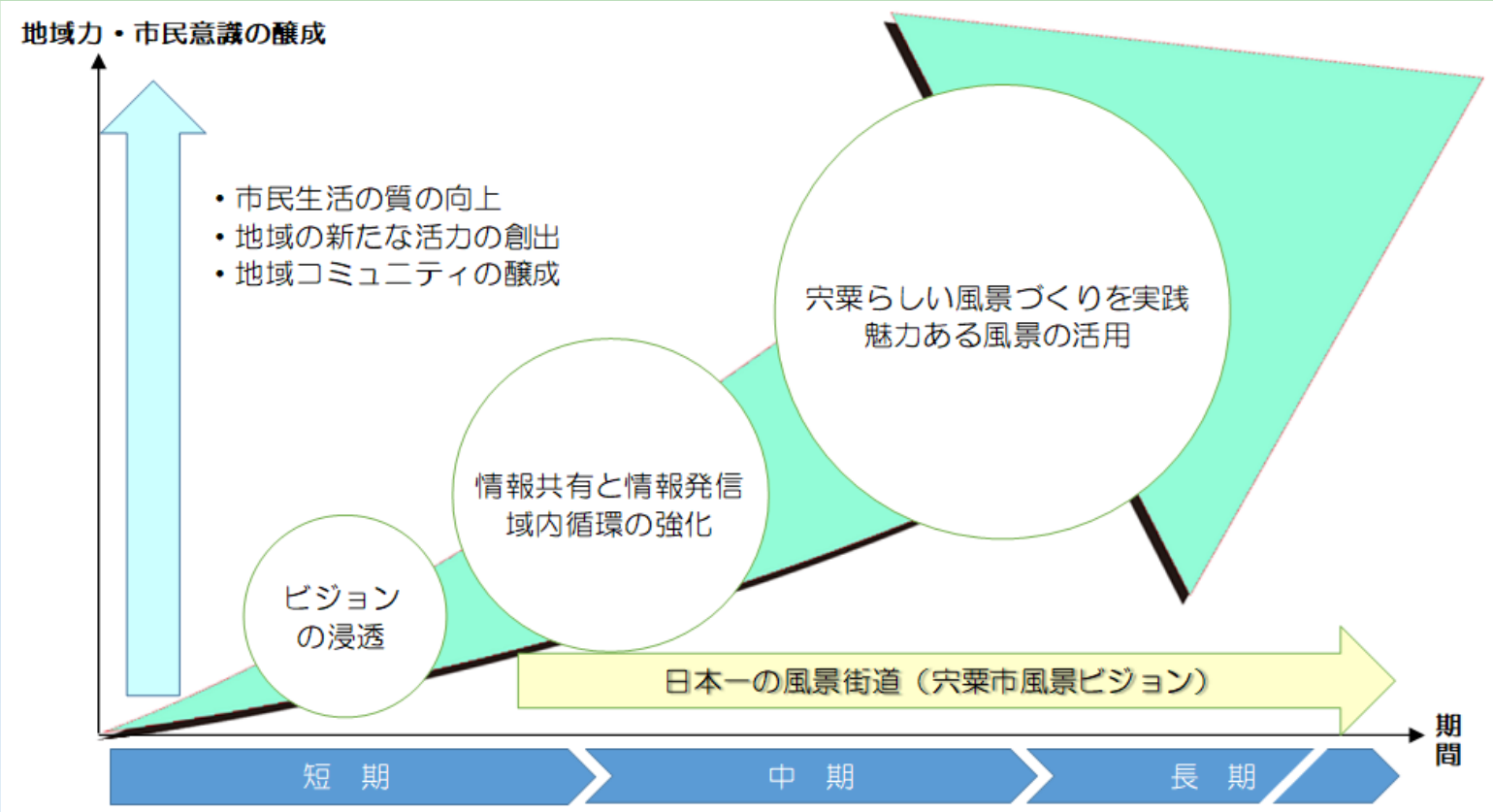
（2）市民憲章の誓いをもとにした風景の視点

宍粟市民憲章	風景の視点
守っていきたい 四季を織りなす 豊かな自然	豊かな自然を守り活かす
	来訪者の満足感を高める
伝えていきたい 祖先のあしあと 先人の知恵	歴史文化を未来へつなぐ
	住み続けたいと思う地域づくり
大切にしたい 敬うこころ 支えあいの輪	交流と連携の輪を広げる
	活動の場をつくる
育てていきたい 宍粟を築く かがやく笑顔	「人」を育て集める
	市民が主役になる

風景街道の創造

■日本一の風景街道に向けた道のり

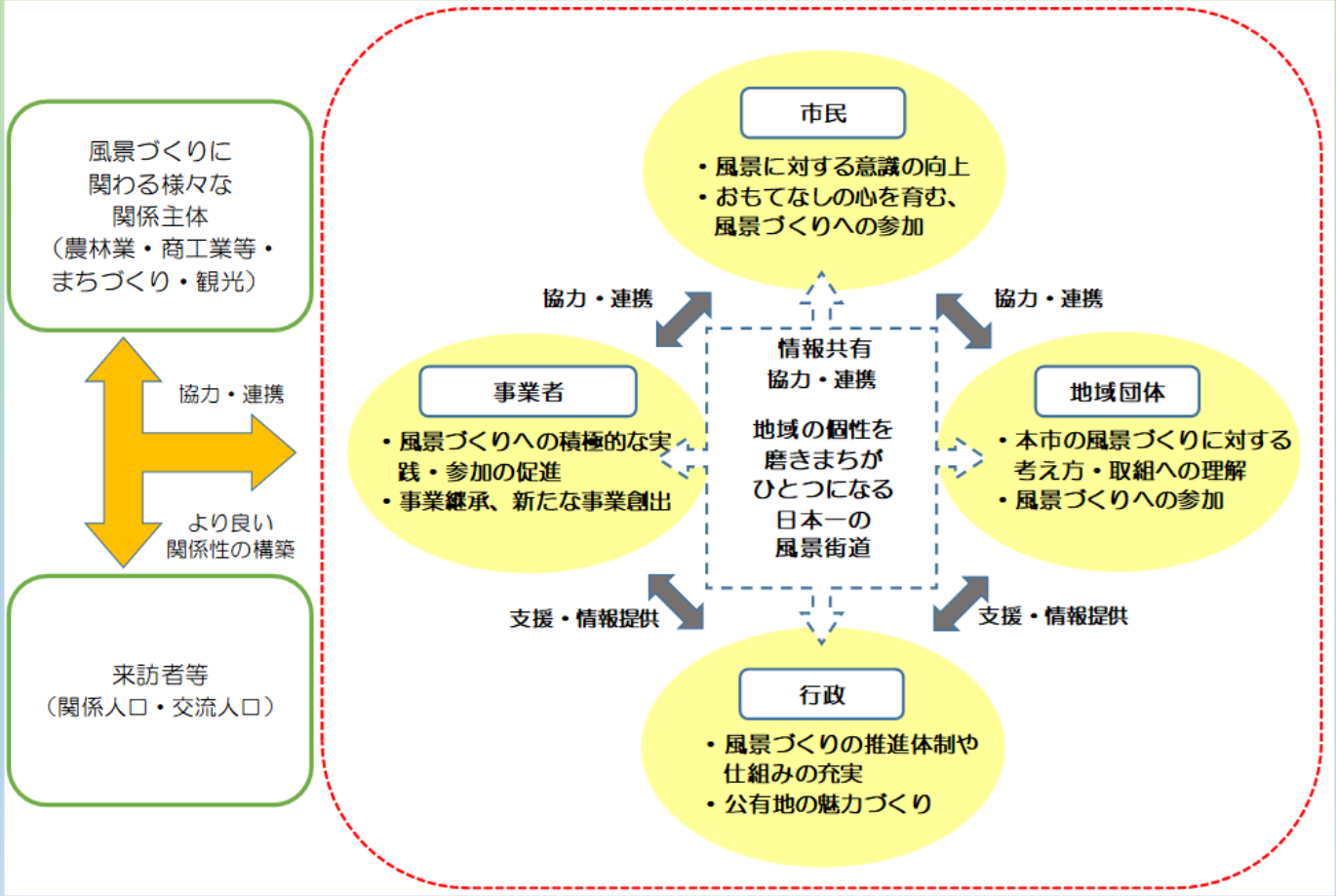
地域力と市民意識の醸成から宍粟らしい風景づくりの実践へ



風景街道の創造

■風景づくりの推進

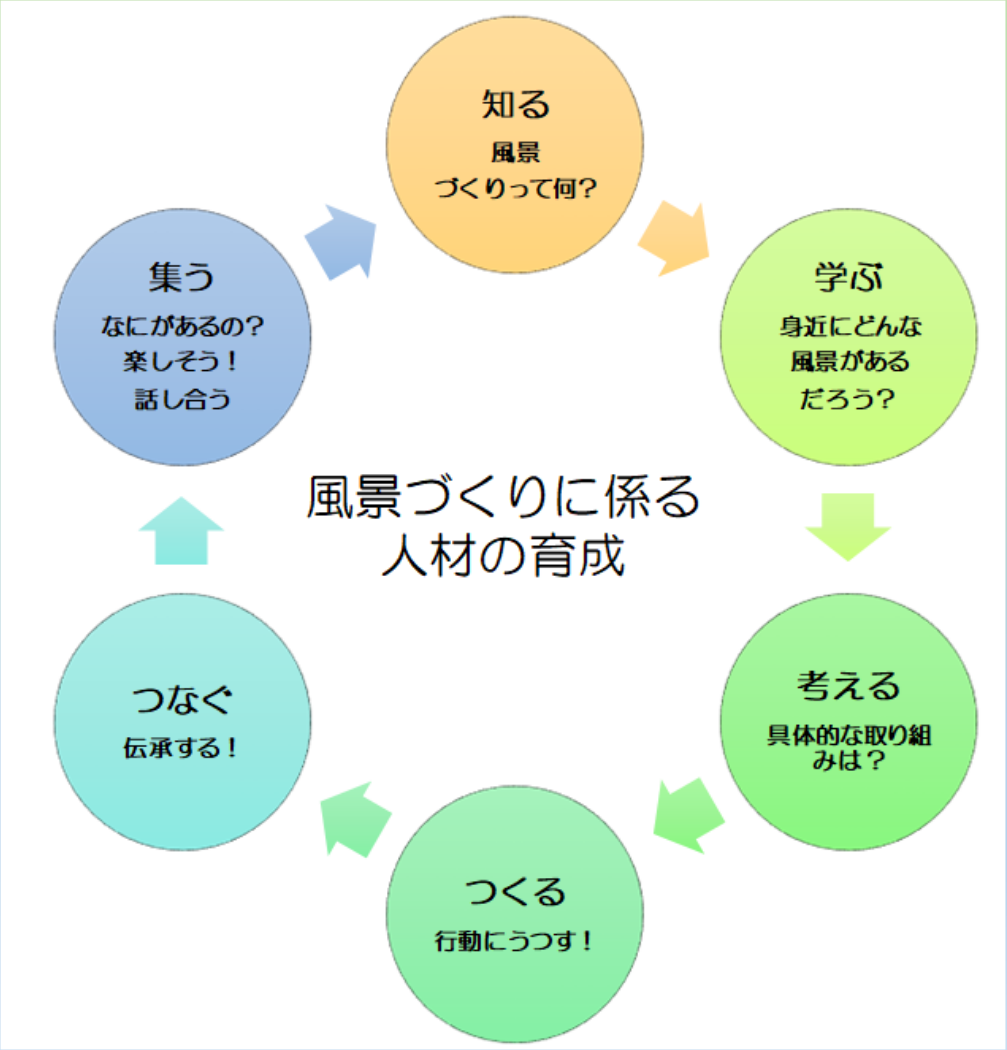
- 関係主体が「協力・連携」「支援・情報提供」
- ビジョン浸透とともに交流人口、関係人口が増加
- 地域経済の好循環促進



風景街道の創造

■人を育てる

- 持続性のある風景づくりには「人」の育成が重要
- 宍粟の魅力ある個性豊かな風景づくりに貢献できる「人」を育成



風景街道の創造

■分類ごとの風景づくり

分　類	風景づくりに取り組むにあたっての方向性	
都市/まちと暮らし	生活圏の拠点における賑わいづくり	地域のコミュニティの魅力と遊休資産の活用
	商工業の発展	主要道及び沿線でのおもてなし
農地/里地と暮らし	事業規模の拡大と多様な農業生産	農業体験や農泊
	特色ある農業	農地の多用途での活用
山林/里山と暮らし	森林整備	アウトドアコンテンツ
	里山づくり	
河川/湖と暮らし	川遊びや河川公園の利用	河川や湧水の活用
	音水湖周辺の賑わいづくり	
歴史/文化と暮らし	歴史・文化的資源の活用	情報共有と情報発信
	食文化でのおもてなし	

風景街道の創造

■めざすべき姿の実現に向けて

①風景とともに生きる社会

　気の赴くままに訪れても誰かが居て、時には仲間と賑やかに、時には一人で静かに時間を過ごすことができる魅力ある風景をめざします。

②広がるコミュニティ

　市民の誇りに支えられた文化や風景、産物の魅力が各地に根差す物語と共に発信されることにより、魅力ある風景を維持する力が生まれ、持続可能な地域社会をめざします。

③自分らしい生き方

　歴史や文化、季節や時間などの風景という要素を取り入れることで、充実した生活を志向する人が増え、自分らしい生き方を選択できる社会をめざします。

④支え合う社会

　地域に見守られながら安心して子育てや介護などができることで、誰一人取り残さない支え合う社会をめざします。

⑤地域経済好循環の促進

　地域で消費するものを地域で生産する「地消地産」により獲得した資金を地域内で循環させることで、地域に雇用と所得を持続的に生み出す自立的な地域社会をめざします。